



2月 調布幼稚園だより



『冬の自然とのかかわる子どもたち』

園長 山形美津子

暦の上では大寒も過ぎ、ようやく春の声を聞く季節となりましたが、まだまだ気温が低く、寒い日や北風が強い日が続くようです。

「子どもは風の子」と言われているように、この寒さの中でも子どもたちは、冬の自然とのかかわりを満喫しています。特に、この時期ならではの自然現象や自然の不思議さ・美しさに気付いたり、感動したりする日々を過ごしています。朝の登園時、始業の時間を待っている間にも、早く登園してきた子どもたちは、中庭に日陰と陽向があり、陽向に立っていると暖かいということに気付いています。

先日、とても寒かった日に、氷ができるのではないかと、子どもの畑に水を張った入れ物を仕掛けて帰ったクラスがありました。入れ物は様々で、プラスチックのバケツ、大きな斗缶、タライ、プラスチック容器等々、そしてそれらを置く場所も畑の真ん中や隅っこなど、いろいろな場所を選んで氷の出来具合を試そうとしていました。次の日の朝、子どもたちは氷ができているかどうかさっそく畑に行きました。子どもたちの予想通り、入れ物に氷が張っていました。子どもたちが立派な氷を発見した時の驚き、感動は言うまでもありません。「できてる、できてる」「こっちも凍ってるよー」と大歓声！恐る恐る手に氷を持ってみる子がいると「冷たい、誰か持ってー」と代わる代わる氷を持ち、感じたままを言葉にしていました。容器によって出来具合、氷の厚さなどは違っていました、「ツルツルして滑りそう」「この氷、反対側がザラザラになってる、なんでだろう」と不思議に思うことを口に出している子もいました。また、畑の周囲を歩いたときに「なんか音がするよ」「あ、ここの土、凍ってる、霜柱だー」と霜柱を自分の足で感じ、発見している子もいました。

1月には、どの学年も年齢に応じた作り方で凧を作り、凧揚げを楽しんでいます。凧揚げの活動も冬の自然の一つである風を感じる経験をする活動になります。年少組はビニールの袋を利用して作った凧、ビニール袋の中に風をため込むことで風を受けて浮かぶという凧です。年中組は画用紙にストローで骨を作り走って揚げる凧です。年長組はビニールを使ってストローや竹ひごで骨組みを作りました。風を受けて高く揚がる凧です。風の向きや強さなど、冬の冷たい風を感じる活動を体験しました。

今号は、子どもたちと冬の自然とのかかわりをお伝えしました。日本には四季があります。幼児にとって自然のもつ意味はとても大きいものです。自然に触れて感動する体験は貴重なものです。季節の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え、言葉などで表現する活動は、身近な事象への関心が高まるとともに子どもたちの豊かな感性を育むことにもつながります。

これからも、子どもたちが時期を逃さず、いろいろな自然と出会える機会を大切に、自然に触れ合えるようにしていきたいと思えます。

年少組は、12月の表現ステージで保護者の方に踊りや歌を見てもらったことが嬉しく、今回は参観日で楽器を使って合奏を聴かせたいと張り切っています。また日頃の生活の様子もご覧いただく時間もありますので、身支度のことなども併せてご覧いただければと思います。

年中組は、表現ステージの時に年長組の合奏を見て憧れの気持ちを持ち、自分たちもやってみたいと頑張ってお練習をしています。今まで使ったことのない楽器も使って発表します。2月に参観日を設けますので楽しみにご覧下さい。

年長組は、今、クラスでチームを作り、ドッジボールを楽しんでいます。2月には学年でチーム対抗戦のドッジボール大会を行います。ボールの投げ方も力強くなり、ボールを手にしたらすぐに投げることもできるようになってきました。大会に向けてチームで作戦を考え、勝てるように結束力を高め合っています。残り僅かな園生活となりましたが一日一日を大切に過ごしております。

保護者の皆様、地域の皆様、今後ともご指導ご支援の程、よろしくお願い致します。

季節の歌 2月

顧問 外崎明美



まめまき 童謡・唱歌

作詞 作曲 絵本唱歌

1, おにはそと
ふくはうち
ぱらっ ぱらっ
ぱらっ ぱらっ
まめのおと
おには こっそり
にげていく

2, おにはそと
ふくはうち
ぱらっ ぱらっ
ぱらっ ぱらっ
まめのおと
はやく おはいり
ふくのかみ



節分にまつわる話

『おふくとおに』

文 西本鶏介 絵 塩田守男

昔話に「おふくとおに」という話があります。(以下 大まかなあらすじです)

畑で作物を作っていましたが、日照りで作物が枯れてきて困っているところに鬼がやってきました。

「雨を降らせてやる代わりに、娘をもらうぞ」と畑にいた男の人に言い、約束通り雨を降らせます。約束をしまった男の人は、(おふく)という名の娘の親でした。雨は嬉しいが、『娘を取られる』と困り果てますが、他の農家の人たちはそんなことも知らず、雨の恵みに大喜び。おふくは「おら、鬼の所に行く」と決心します。

鬼に娘のおふくを取られるときに、母親がこっそり菜の花の種をおふくに持たせます。おふくは菜種を少しずつまきながら、鬼の住む山について行きます。夏が来て、秋が来て、冬が来て、また春がきます。おふくがまいた菜種から菜の花が一斉に咲き、村に帰る道につながっています。

おふくは鬼の目を盗んで一目散に家に帰ります。それに気が付いた鬼はおふくを取り返しにきます。母親は大急ぎで豆を炒り、「鬼は外」「おふくはうち(家)」と炒り豆を鬼にぶつけながら、「その豆をまいて、花が咲いたらおふくをくれてやる」といいます。鬼はとぼとぼと山に帰り、炒り豆をまいて花が咲くのを待ちます。しかし、炒った豆から花は咲きません。

怒った鬼はまたおふくを取り返しに来ます。何年も同じことを繰り返し、とうとう鬼は諦めました。それ以来、娘を鬼に取られてはいけないと、節分の日になると、村中で「鬼は外、ふくはうち(家)」と言って豆まきをするようになったということです。まく豆は必ず炒った豆でないといけないよと。豆から花が咲くと鬼に娘を取られるからな・・・という、節分にまつわるお話です。

※鬼の出てくるお話には「泣いた赤鬼」のように、友情を知るお話もあります。「せんりのくつ」「大工と鬼六」
他 いろいろな鬼の出てくるお話に親しむ良い機会になることを願っています。



節分は立春の前の日に行います。

幼稚園でも節分の話をし、豆をまいて子どもたちに自分の中にいる弱いもの(鬼)を追い出そうと話をする、「好き嫌い鬼」「寝坊鬼」「怒りんぼ鬼」「泣き虫鬼」など、みんなにも当てはまりそうな鬼を口々に言います。より良い自分になるために、みんなが元気に過ごせるように、「鬼は外」と炒った豆をまいて、鬼を追い出し、福の神を招き入れるために、「福は内」と大きな声で言いながら豆をまいていきます。鬼が嫌いだと言われている「イワシの頭、柊の葉、豆の殻」を入り口にもぶら下げ、鬼が入らないようにします。

今年も子どもたちが元気に健やかに成長しますように。

2月の目標

全学年

- 冬ならではの植物の様子や、北風、雪、氷、霜柱などの自然現象に興味をもって見たり、自分たちでも仕掛けをしたりし、氷が張るか試してみる。
- 冬から春への季節の移り変わりを日差しの暖かさや木の芽吹き等、様々な自然現象から感じる。
- 感染症予防のため、手洗いうがいをしっかり行う。

年少組

- 寒さに負けずに元気に外で遊んだり、簡単なルールのある遊びを楽しむ。
- 周りの動きに合わせてながら行動する意識をもつ。
- 今まで使ってきた遊具・用具を使って工夫して自分の好きな遊びを十分に楽しむ。
- 当番活動やお手伝いなどに喜んで取り組む。

年中組

- 寒さに負けずに元気に外で体を動かして遊びに取り組み、友達とのかかわりを楽しむ。
- コマなどに自分から取り組み、試したり挑戦したりして遊ぶ中で楽しさや満足感を味わう。
- 友達との遊びの中で、自分の思うようにならないことに対して相手にも思いや考えがあることに気付くとともに、一緒に考えようとする気持ちがもてるようになる。

年長組

- 学年や学級の友達と皆でする楽しさが分かり、友達との連帯感を感じながら自分の力を発揮する。
- 小学校への進学に期待をもつとともに生活に見通しをもち、場や状況に応じた行動をとる。
- 残り少ない園生活を十分に楽しみ、楽しさを仲間と共有する。
- 残り少ない園生活を振り返り、先生や友達、家族の方に感謝の気持ちを言葉や行動で表す。
- 季節の移り変わりや、春の訪れなどに目を向け、興味や関心を広げる。